

国内経済情勢

概観

生産調整の撤廃などを背景に、生産は増勢を強めているが、出荷の増加テンポはこのところやや鈍化している。このような出荷の動向には、一時的要因が響いている点もあるが、需要面において民間投資が徐々に上向く傾向をたどっている反面、官公需、輸出の伸びがいくぶん鈍化しはじめていることも多少影響しているとみられる。

しかし、総じてみれば、経済活動の根強い拡大基調には変わりなく、労働力需給面では徐々に引き締め気配がみられはじめており、商品市況面でも、主力商品の訂正安の動きが弱まっている。

また、資金需要面でも、大企業の借入需要はこれまでの落着き基調を改めるに至っていないが、中小企業では漸次底堅さを加えてきている。

この間にあって、9月の国際収支は引き続き黒字基調を維持しているが、生産活動の活発化に伴う輸入素原材料消費の増高などから、輸入の増勢が次第に目立っており、他方輸出はやや伸び悩み気配がみられはじめている。

生産、出荷の増勢続く

鉱工業生産(季節調整済み)は、8月に前月比+1.2%と増加したあと、9月も速報で+1.8%とかなりの増加を示した。この結果、四半期別の前期比増加率は1~3月+3.7%、4~6月+4.2%に対し、7~9月は+5.5%と一段と増勢を強めている。9月の生産を財別にみると、各財ともほぼ軒並みに増加しているが、なかでも一般資本財が前月著減の反動もあって、ボイラー・原動機、運搬機械、金属加工機械など一般機械の著増を主因に相当増加し、輸送機械も大幅に増加した。

7、8月伸び悩みぎみに推移した鉱工業出荷(季節調整済み)は、9月(速報)には輸送機械の急増などから前月比+1.3%と増勢はかなり回復した。しかし四半期別にみると、1~3月、4~6

月は前期比それぞれ+3.9%、+4.8%と大幅な増加を示したのに対し、7~9月は+2.4%と増勢が鈍化している。これには、不規則変動の大きい電力向け大型機械や鋼船出荷がたまたま7~9月に大幅減となったという面もあるが、これとともにこれまで急速な出荷増に大きく寄与してきた官公需や輸出の増勢にいくぶん鈍化がみられはじめたことも多少は響いているものと思われる。もっとも、民間投資は徐々に増勢を強める方向にあるので、出荷の増加基調がここへきて大きく変化しつつあるとはみられない。

上記の生産、出荷の動きを映じ、9月の生産者製品在庫(季節調整済み、速報)は、前月比+1.7%と引き続き増加した。財別には、輸送機械(四輪車、自動二輪車など)、耐久消費財(主として民生用電気機械)の増加が目立っている。製品在庫率(速報)も前月比+0.3%と微増し、ようやく下げ止まりの様相をみせている。

一方、設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節調整済み)は、8月に前月比+16.4%増加のあと、9月は-9.1%の減少となった。このように月々のフレはやや大きいが、四半期別にみると、1~3月+2.7%、4~6月+0.1%に対し、7~9月は+11.6%とこのところかなり増勢を強めている。

なお、このような根強い生産動向を映じて、所定外労働時間は数ヶ月にわたり増勢を続けているがさすがにここへきて新規求人増加が目立ちはじめしており、一般労働力需給は徐々に引き締め気配を強めているようである。

主力商品訂正安の動き弱まる

9月から10月にかけての商品市況をみると、これまで底堅い動きを続けてきたセメント、化学、洋紙、木材などは秋需期入りもあり引き続き上伸びないしは強含みに推移し、非鉄の一部(銅)も反騰に転じた。この間、鉄鋼、繊維はこれまでの過度の上げ過ぎに対する反動のほか、将来の供給増加懸念も多少加わって訂正安商状を示していたが、

最近では軟化の度合いはやや弱まり、すでに一部の品目では下げ一服商状となっている。

9月の本行卸売物価は、非鉄や鉄鋼の下落を主因に前月比 -0.1% と欠方ぶりに騰勢一服し、10月上旬は前旬比 $+0.4\%$ 、中旬は -0.1% となっているが、基調は強含み横ばいに推移しているものとみられる。

9月の消費者物価(東京)は、このところ落着きを見せてきた衣料や食料が反発したため、前月比 $+0.7\%$ と反騰し、10月も $+0.1\%$ の微騰を示した。季節商品を除いてみても9月、10月ともこれと同じテンポの上昇が続いている。

中小企業向けを中心に銀行貸出の増勢続く

9月の金融市場は、財政資金の季節的散超月に当たった関係から、総じて平穩のうちに推移した。もっとも、国債の市中消化が1,184億円と多額にのぼったため、例年に比べると、市中の資金余剰額はかなり縮小した。

この間、銀行券は前年と異なり発行超(21億円、前年同月49億円の還収超)となり、月中平均発行高の前年同月比増加率も $+15.1\%$ と39年10月以来久々に $+15\%$ 台に乗せるなど、増勢は次第に強まっている。これは、景況回復に伴う商取引の活発化と、賃金所得や個人消費の持ち直し傾向を映じたものである。現に、最近における全産業の定期給与は着実に増加しており、また個人消費の基調も、百貨店売上高の動きなどからみて漸次底堅さを増している。

9月の全国銀行貸出増加額は、4,962億円と前年同月を約4割方上回り、また相互銀行、信用金庫などの中小企業金融機関の貸出もかなり増加した。ただ長期信用銀行および信託銀行信託勘定の貸出増加額は、ひとところほどではないにしても依然として伸び悩んでいる。このように金融機関貸出が全体として大幅な増加を続けている背景には、期末月のこととて、銀行が預金面との兼ね合いから貸進んだことが響いているとみられるが、同時に、中小企業の増産・増販資金といった腰の強い資金需要が次第にふえつつあることもその一因として見のがせない。もっとも、大企業の借入需要には、まだ格別の動意はうかがわれず、全国銀行貸出約定平均金利は8月には日歩7糸低下

し、昨年初来すでに20か月におよぶ息の長い低下を続けている。ただ一般事業債の新規起債は、これまでのところ企業の起債意欲の低調から引き続き不ぞえ裡に推移しているが、先行きについては多少増加のきざしもみられる。公社債の市中相場も長期物を中心にいくぶん弱含みとなっている。

なお、10月1日以降、懸案の国債の取引所相場が実現したが、相場はこれまでの店頭気配と同値で推移している。

貿易収支の黒字幅先行き縮小のきざし

9月の国際収支(IMF方式)をみると、経常収支は貿易収支の好調(237百万ドルの黒字)にささえられて受超幅を拡大した(167百万ドル)。このため、資本収支が長期資本の流出増を主因に大幅な逆調となったものの、総合収支では前月をかなり上回る84百万ドルの黒字となった。なお金融勘定では、外銀ユーザンスの減少や輸出手形の買持ち増などから為替銀行の短期資産負債バランスが引き続き改善したが、反面、外貨準備は19百万ドルの減少となった。

9月の輸出は、前年同月比で $+20\%$ 、季節調整後の実勢でも前月比 $+6\%$ と好伸した。通関ベースで商品別の動きをみると、鉄鋼は引き続き前年水準を下回っているものの、船舶が前月著減の反動から急増したほか、自動車、電気機械、合繊織物なども順調な伸びを続けている。ただ、最近、内需の増大に伴い一部では輸出意欲にやや減退のきざしもあり、先行指標である輸出信用状の動き(季節調整済み)には、伸び悩み気配がうかがわれるに至っている。

一方、前月に急増した輸入は、9月も季節調整後の実勢で前月比 $+1\%$ とさらに増加し、前年同月比では $+19\%$ と高水準を続けている。商品別の動き(通関ベース)をみると、石油、石炭、木材、羊毛などの原燃料や食料が高水準を示している。このようにここ一両月、輸入がかなり増加しているうえ、先行指標である9月の輸入信用状や輸入承認(いずれも季節調整済み)も、一段と増勢を強めており、特に、輸入承認は前月比 $+11\%$ の著増を示している。

このような輸出入の動向からみて、季節調整後の貿易収支の黒字幅は当面縮小傾向を免れないものとみられる。(昭和41年11月1日)